

平成 25 年度病虫害防除所職員等中央研修の開催

農林水産省消費・安全局は、都道府県病虫害防除所職員等の病虫害防除に係る知識の習得を図るため、毎年標記研修を開催している。平成 25 年度は、12 月 10 日～13 日の 4 日間、横浜第 2 合同庁舎及び植物防疫所研修センターにおいて、37 都府県の病虫害防除所等職員及び全国 5 か所の植物防疫所から計 49 名が参加して実施された。研修では植物防疫課職員等による植物防疫行政、PPV に関する緊急防除、発生予察情報の作成、アザミウマ類が媒介するウイルス病、アザミウマ類の新たな発生予察手法、病虫害の薬剤抵抗性及び天敵を活用した病虫害防除についての講義と実習が行われた。植物防疫所は、侵入警戒調査対象病虫害等の同定、アザミウマ類の同定及びウイルスの同定についての講義・実習を行った。特に本年は、アザミウマ類の同定において、研修生が自ら持参した標本

を材料として同定を行ったことで実践的なものとなった。

本研修の成果が、病虫害防除所の業務に生かされることを期待したい。



海外のニュース *Bactrocera invadens* がアフリカ大陸最南部に分布拡大

Bactrocera invadens はミカンコミバエ種群やクインスランドミバエ、ウリミバエと同じ *Bactrocera* 属に属するミバエであるが、近年、アフリカ大陸最南部に侵入・定着する可能性が高まっている。南アフリカ共和国では 2010 年頃から北部地域で本種の発生と根絶が繰り返されていたが、昨年 12 月の時点において 4 地域で発生が確認されている。また、昨年 6 月にはスワジランドの複数箇所でも本種が発見された。本種のもともとの生息地域は南アジアのスリランカだが、2003 年にケニアで発見されて以降、急速にアフリカでの分布を広げ、現在はアフリカ大陸北部を除くほとんどのアフリカ諸国で発生が確認されている。

本種は極めて広食性で、寄主植物として、カンキツ類、マンゴウ、バンジロウ、パパイヤ、トマト、ピーマンなど 26 科 78 種の植物が記録されており、今後の調査によってさらに増える可能性がある。

生活史は他のミバエ類と同じく、成虫が果実中に卵を産み、ふ化した幼虫が果実内部を食害する。幼虫は老熟すると果実から脱出し

て土中で蛹になる。本種は高温多湿な環境を好むため、乾季には成虫の数が減少し、雨季には増える傾向が見られるものの、温暖な地域では年間を通して発生する。雄成虫はメチルオイゲノールに誘引される。

本種はもともとの生息地であるスリランカでは被害が問題視されていなかったが、アフリカ諸国では経済的に大きな被害を与えており、マンゴウなどの農園では、もともとアフリカに生息していた *Ceratitis cosyra* などとの競争に勝って優占種となっていると考えられている。

南アフリカ共和国及びスワジランドでは、本種の封じ込め・根絶を目指し、寄主植物の移動を制限するとともに、毒餌剤の散布、メチルオイゲノールと殺虫剤を吸着させた資材の配置などによる防除対策が実施されている。

発行所 横浜植物防疫所

発行人 川口 嘉久

編集責任者 水野 明文

掲載 植物防疫所ホームページ <http://www.maff.go.jp/pps/>